

植物多様性センターの「ラン科植物のさく果」

雑木林を歩いていると、冬景色の中に様々な植物の枯れた果実や莢などを見ることができます。落ち葉の積もる林床にはラン科植物特有の枯れたさく果がしばしば目にとまります。ランの枯れたさく果の特徴は、縦にスリットの入った紡錘形ですが、開花中と異なりねじれた花柄子房は上を向き、ほとんどまっすぐにもどっています。この時期に自生地を確認しておくことで、春以降の観察の楽しみが増えますね。



ギンラン: 小型で中央が膨らんだ紡錘形の蒴果



クゲヌマラン: ギンランに似るが、やや縦長で下半分が細い



マヤラン: 縦長の蒴果。葉のないランは蒴果の位置がたより



シュンラン: 長さ5cmの大きな蒴果。常緑の葉とともによく目立つ